



鶴舞

## 带状疱疹体験記



鶴舞支部  
亀井 正英

以前、带状疱疹になりました。その日は、夜、突然に激しい痛みで起こされ、今まで経験のないほどの強い痛みが、右臀部から右大腿にかけてズキンズキンと起こり、もんどり返る程でした。朝、原因がわからないまま鎮痛剤を服用して何とか仕事をし、夜になって赤い発疹を発見しました。特に带状という感じではありませんでしたが、带状疱疹ではないかと直感しました。

そもそも带状疱疹は、体内の神経節に潜伏していたヘルペスウイルス・水痘带状疱疹ウイルスが、加齢・ストレス・過労などで免疫力が低下してきた時に活動しだすもので、通常左右どちらか一方のみ。生涯に一度だけ発症し再発は稀のようです。症状は、皮膚に神経痛のような痛み、ピリピリ・ズキズキ・チクチク・焼けるような痛み等と表現されます。

柔整業務においては、初診で带状疱疹に遭遇することが、極稀にありましたが、発疹が出る前の極めて初期の段階です。部位によっては、患者さんも捻挫や挫傷と思われ来院されますが、1～2回治療した後日、「先生あれ带状疱疹だったわ」と言われた時の情けないこと。

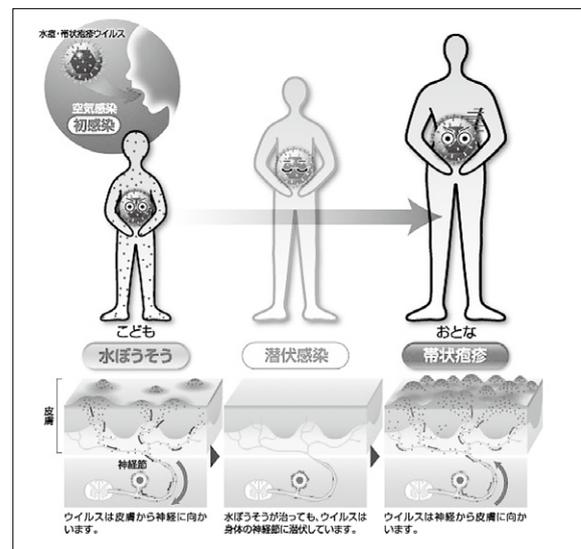
不勉強を反省しました。でも、带状疱疹を

理解した後も、数回の失敗を経験しました。

前記の通り带状疱疹は、疲労困憊して免疫力が低下しているときに起こってくるもので、その前段階で些細な外力で捻挫や挫傷を起こしていても不思議ではなく、患者さんは同時に2つの問題を抱えていたとも考えられます。また、初診時には断定的なことは言わず、可能性のある疾患は示唆しておく必要があると実感しました。

専門医といえども、発疹のない状態での带状疱疹の診断は難しく、また発赤があっても“とびひ”や“虫刺され”との鑑別が必要であり、抗原検査キットを使用するようです。(病理検査や血液検査)

私の带状疱疹はその後、直ぐに皮膚科を受診して抗ウイルス薬を処方してもらい1週間ほどで完治しました。年齢を経てから発症すると带状疱疹後神経痛 (PHN) に1年以上も悩まされる事があるようで、まだまだ若かったかなと安堵しているところです。



東京女子医科大学皮膚科教授 川島 眞先生  
資料より引用

## 大曾根

## 夏祭りの再開



大曾根支部広報担当  
瀬古 真吾

新型コロナの流行で、この数年すべての事に自粛を余儀なくされたが、世界情勢がWithコロナに舵を切ることで、令和四年の夏は、感染者数が増加傾向にあっても各地で催し物が再開されることが増えてきた。

それに伴い、母の実家がある三重県桑名市で行われる「石取り祭り」が3年ぶりに全面開催された。

この祭りは、町屋川（員弁川）から石を運び桑名宗社（春日神社）へ石を奉納したことが祭りの名前の由来となっていて、毎年8月第一日曜日の前日（土曜日）の午前0時から日曜日深夜まで行われる。参加する町内毎に彫り物や提灯などで飾られた祭車があり、それが30数台寄り集まってそれぞれに鉦や太鼓を打ち鳴らし練り歩く。「日本一やかましい



祭り」、「天下の奇祭」と呼ばれる。

凝った装飾の祭車の間近まで近寄ることができて、腹に響く大音量の鉦や太鼓の迫力を堪能でき、「これを聞かないと夏が来た気がしない」と地元民が自慢する祭りだ。



愛知県から木曾三川を三重県に渡ると直ぐにある町の祭りであるが、近郊でもあまり知られていないようだ。重要無形民俗文化財やユネスコの無形文化遺産に登録されたことで、行政も観光資源としての活用に力を入れ始めたのだが、コロナ禍による開催中止が続いたことで今年の観客は少なかったようだ。

まだコロナ禍が収まらず、各地で行われる行事の是非が問われているが、子供の頃から見えてきた祭りが行われることは楽しいものだ。ここ数年で大小問わず冠婚葬祭が簡略化され、伝統的な行事や人のつながりが疎になってしまい、無味乾燥な世の中になってきているような気がする。

コロナ終息後は、人の賑わいによって作られる感動を得られる日が早く来ることを願う。

## 2022 四国総体観戦



大曾根支部  
河邊 俊博

令和4年8月6日から10日まで「燃え上げ 我らの闘志 四国の大地へ」をスローガンに、全国高等学校総合体育大会四国総体2022が愛媛県立武道館にて開催され観戦しました。



新型コロナウイルス感染拡大防止により、一昨年はインターハイ史上初めての大会中止、昨年は原則無観客での大会となりました。

今大会は観客入場者数制限・発声のある応援禁止・会場内手指消毒・マスク着用の徹底等、様々な制限が設けられましたが、各都道府県を勝ち抜いた代表選手が、愛媛松山の地に集い激しく熱い戦いが繰り広げられました。

感染対策で声を出しての応援ができないため、会場は緊張と静寂の中で試合は進められていきました。激しい技の攻防や畳の擦れる音、荒々しい息づかいが観覧席まで聞こえてくるほどで、私が新型コロナ流行前まで経験してきた柔道大会とは全く別物で、新鮮ささえ感じました。

選手達は新型コロナ流行により高校生活の3年間を思うような練習ができない日々が続く、柔道に対するモチベーションを保つことが難しい時期もあったようです。試合をすることで今までの我慢やもどかしさをぶつけ合い、最後まであきらめず「全てを出し切る」高校生の闘志を間近で観戦させてもらい私も元気をもらいました。



今後、世の中が少しずつ活気づいて元の生活に戻っていく中、この若者たちが世の中を

背負っていくのだなと感じさせられた瞬間でした。私自身も何か柔道整復師・柔道指導者として地元地域に貢献できればと勇気をもらい奮い立たされた1日となりました。

試合後は愛媛の観光名所を周り日本最古といわれる「道後温泉」で疲れを癒し、瀬戸内の海の幸を使った郷土料理を堪能し充実した夏休みとなりました。

## 一宮

### コロナ禍のツーリング



一宮支部  
古賀 一

令和4年10月9日（日）コロナ禍にて自粛していたツーリングですが、感染者数も落ち着いてきたので久々に出かけようと思いつき何人かに声を掛けて行くことにしました。行き先は九頭竜湖経由で石徹白にある満天の湯です。

7日の天気予報では9日は何とかモーターサイクルで出掛けられそうでしたが、8日の午後の天気予報で9日は昼頃から崩れると出ましたので自動車に替えて行くことにし、出席者に連絡しました。待ち合わせは、東海北陸道の瓢が岳PAです。

当日8時半が集合時間だったので自宅を7時半過ぎには出て待ち合わせ場所には40分ぐらいで着きました。メンバーが揃ったので出発し白鳥インターまで行き、中部縦貫自動車道に入り国道158号線を西に進行し、道の駅九頭竜で休憩し、山岳道路に入ることにしました。この道の駅には、JRの九頭竜駅があります。越美北線という単線の鉄道です。列車も一日に数えるほどしかありませんが、偶然にもその列車が停車しているところに遭遇しました。一両編成のディーゼルカーでした。また、この道の駅には、動く恐竜の模型が飾っており、結構リアルです。冬になると雪や低



温で壊れる恐れがあるため国道を引っ張られながら倉庫へ移動し春まで冬眠するそうです。

休憩を終え県道127号線を北上し目的地に向かいました。途中狭い箇所があり、対向車とすれ違うのにハラハラしながらなんとか無事に目的地にたどり着き、昼食後お湯につかり英気を養いました。

入浴後、帰宅の途に着こうと施設を出ると12時半でしたが、雨がぽつぽつと降ってきました。県道314号線を下り国道158号線に出て、ぎふ大和インターから東海北陸道に入り、古城山PAにて解散しました。無事終わることができほっとしました。

来春、また出かけようと思います。



## 刈谷

### 北海道の旅



刈谷支部広報担当  
岡田 忠士

令和4年7月9日（土）～11日（月）の2泊3日で、北海道へ行ってきました。計画自体は令和3年の年末に聞いていて、2泊3日で行くことを躊躇っていましたが、患者さんに「行ってきたら」と背中を押していただき、意を決して行ってきました。

初めて北海道へ行ったのは約30年前の3月、2回目は約20年前1月で、今回初めての夏の北海道です。

函館空港へ着陸し飛行機の扉を出ると“ひんやり”した空気に「北海道へ来た！」と感じました。空港からはバスで「五稜郭タワー」へ移動、途中「整骨院」の看板を続けて3～4軒目にしました。後日Googleマップで確認しましたが、バスから見た整骨院は1.5kmほどの間に集中していて、検索すると五稜郭周辺に20件ほどあるようです。激戦区、「これで食っていけるのか？」と思いました。

昼食後、五稜郭タワーに登り、展望台から五稜郭のあの独特の形を観ることができました。その後実際に五稜郭へ行き中央にある「函館奉行所」を観てバスに戻り次の目的地へ。

明治期の1階は和風、2回は洋風という独特の建物の残る地域を通り、洋風建築の「旧函





館区公会堂」へ。見学後、函館ベイエリアを散策、雨が強くなり、早めにバスに戻りました。その後、湯の川温泉の宿へ入り温泉を堪能しました。天気が悪かったので、夜景は見に行きませんでした。

2日目は函館朝市に寄った後、次の目的地である昭和新山熊牧場へ。「北海道は広い」途中休憩を取ったとはいえ、函館から昼食をとった「洞爺湖」まで3時間近くもかかるとは思いませんでした。

熊牧場の入り口で1袋100円の熊用クッキーを1つ購入し熊牧場の中に入ると、出入り口に近い檻に子熊が居ました。



「子熊にはクッキーをあたえないで」とのことで、かわいい子熊をしばらく見て大人の熊の居る檻へ移動、クッキーを投げると、上手く食べる熊もいれば、上手く食べられず、落としたクッキーを他の熊に取られる熊もいて、すぐに1袋空になり自動販売機で、



2袋200円で売っている物を買いました。

熊の檻の中に「人間の檻」と呼ばれる場所があり、階段を下りて行って行くと通路状の部屋があり、いくつか窓とクッキーを入れるパイプがあって、パイプの口でクッキーを持っていると、近寄ってきた熊の巨大な顔が窓に近づき、熊が焦らされて「ぶわっ」と鼻息を出していました、熊の大きさを実感でき迫

力がありました。

次の目的地ウポポイを見学し、1泊2日組を千歳空港まで送って、この日の宿のある札幌に入り夕食に焼肉（ラム、牛など）を食べ2日目は終了です。

3日目、時計台を観た後、大倉山ジャンプ



競技場の見学に行きました。初めての北海道旅行で行った時は、リフトで上には上がらなかったの、今回初めてジャンプ台の上から札幌市街を観てきました。その後小樽へ行き散策、「こんなだったかな」と記憶の乏しさを感じながら商店や運河を見て回り、バスに戻って小樽運河から北へ10分ほど行ったと



ころにある、青塚食堂で昼食を食べました。30cmはあろうかという大きなニシンの丸焼きが1尾ついていて、おいしく頂きました。

昼食後、小樽を出て千歳空港へ移動し、17時45分発のセントレア行きで北海道を後にしました。行きは、雲間にたまに地面が見える程度でしたが、帰りの飛行機からは素晴らしい景色を楽しめました。徐々に日が暮れて、街の明かりが点き始めるのを見ながら、伊勢湾に入り段々と高度を下げセントレアに着陸して飛行機を降りた時、「蒸し暑！」と思わず声が出てしまい、「戻って来た」と感じました。

## 豊橋

## ハワイ旅行記



豊橋支部広報担当  
齋藤 禎久



2022年11月6日よりハワイオアフ島に旅行してきました。友人から結婚式参列の案内をもらい、コロナも少し落ち着いてきたので思い切って渡航を決めました。

セントレアからホノルルへの直行便は週1便のみで、往路は成田経由、復路は直行便でした。まだまだ国際線は利用客も少なく空港・機内ともに空いていました。

ハワイに到着して先ず驚いたことはホテル・レストランスタッフ以外ほぼノーマスクだったことです。滞在中私も久しぶりにマスク無しで過ごしましたが、空気がとてもおいしかったです。

翌日は結婚式に参列。ハワイでは男性はアロハシャツ、女性はムームーで参列といったカジュアルスタイルでした。貴重な経験をさせていただいた友人に感謝です。

次の日はハーレーダビッドソンをレンタル



して、オアフ島をソロツーリング。ラジオから流れる音楽を聴きながらのノーヘル走行は、若い頃からの憧れでした。

最終日はダイヤモンドヘッド登山。約30分のトレイルを経て、山頂から見る海・ワイキキホテル群は絶景でした。

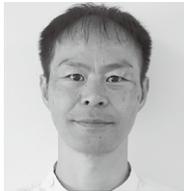
あっという間のハワイ旅行。30年ぶりの記録的円安、高騰する物価はダイヤモンドヘッドよりも高く、度肝を抜かれました。「それでもハワイの素晴らしさはお金に換えられない」と自分に言い聞かせていた帰りのホノルル空港で、ふと日本のニュースを見ると、踊る「円高」の文字。私が円をドルに換えた10月下旬、150円ほどだった相場が、なんと帰国直前に138円まで落ちていたのです。

最後にバーガーキングに行き、握りしめたドルで買った、20ドル＝約3000円のチーズバーガーセットの味は最高でした。



## 半田

### 大府東浦花火大会



半田支部広報担当

西松 信明

令和4年8月28日（土）午後7時から7時30分まで、あいち健康の森公園大芝生広場にて第6回大府東浦花火大会が開催されました。



この花火大会は、平成26年に大府青年会議所が40周年記念事業として花火を打ち上げた事から始まり、翌年はウェルネスバレーフェスタ実行委員会との共同企画として開催しました。平成28年は花火を打ち上げることができませんでしたが、毎年楽しみにしている市町民の皆様や、これまで花火を打ち上げるために関わった人々が、「もう一度大府市と東浦町に花火を打ち上げたい」と願い、有志を募って大府東浦花火大会実行委員会を立ち上

げ、平成29年に第1回大府東浦花火大会を開催する事ができました。

ここから毎年開催するようになり、回を重ねるごとに大会も盛り上がるようになってきていました。しかしながら令和2年、令和3年と2年続けてコロナのため開催できませんでしたが、今年になりウィズコロナという概念が導入されるようになり、コロナ対策をしながら3年ぶりに開催する事ができました。



当日は午前中から公園を訪れる方も多くいて、午後には駐車場はほぼ満車の状態でした。私は徒歩で行きましたが、他にも歩きや自転車で会場に向かう方も多く、駐輪場はいっぱいで通路にまで自転車が並ぶ状況でした。早くから場所取りしている方もたくさんいます。午後4時からキッチンカー&飲食・縁日ブースがオープンしました。縁日ブースも多くの方が来ていて行列が出来ている所もありました。

午後7時になり、花火が打ち上げられ、花火大会の幕が上がると、そのまま一気に30分間打ち上げ続けられました。すごい迫力です。

大府東浦花火大会は、決して大きな花火大会ではないのですが、地域の方が間近で観ることができ、年々観客数も増えていくように思います。この花火大会が地域の活性化につながり、毎年開催されることを期待しています。（一部大府東浦花火大会ホームページより引用）



# 支部だより

鶴舞

## 介護認定審査会委員として



鶴舞支部  
吉田 良樹

介護保険制度では、寝たきりや認知等で常時介護が必要（要介護状態）になった場合や、家事・身支度等の日常生活に支援が必要な状態（要支援状態）になった場合に介護サービスを受けることができます。

この要介護状態や要支援状態にあるかどうかを、要介護状態にあるとすればどの程度かの判定を行うのが要介護認定であり、保険者である市町村に設置される介護認定審査会で判定されます。要介護認定は、介護サービスの給付額に直接結びつくことから、その基準については全国一律に客観的に定められています。

介護認定審査会は、二次判定を行う最終機関で医療・保健・福祉の学識経験者により構成され、高齢者の心身の状況に関する基本調査と主治医の意見書に基づくコンピュータ判定結果（一次判定）と、主治医の意見書及び特記事項の内容に整合性があるかを確認し、主として次の二つの事が決められます。

- ①この方は介護保険の対象になる人かどうか？
- ②介護の手間がどの位の時間を要して、どの位の介護が必要か（要介護度）等

要介護認定は、「介護の手間」を表す「ものさし」としての時間である要介護認定基準時間が定められています。非該当は25分以下、要支援1は25分以上32分未満、要支援2と要介護1は32分以上50分未満、要介護2は50分以上70分未満等、要介護5まで細かく決められています。

では、「要支援2」と「要介護1」では基準時間が同じ時間内に定められていますが、どのような違いがあるのでしょうか？

実は、「要支援2」と「要介護1」では認知機能の低下が認められるか否かによって振り分けられます。よって認知機能の低下があれば「要介護1」に決定されます。審査委員は特記事項の記載内容から、どの文章、文言が認知機能低下を表しているのかを探し、具体的な内容が記載してあれば「要介護1」に認定し、無ければ「要支援2」として認定します。また、認定審査会では調査等で得られた情報を基に「介護の手間」を判定し基準と照らし合わせることで、非該当又は介護度を決定しています。特記事項には、必要事項を記載する際には介護の手間をより具体的に書くことが必要です。

認定審査会会議によって一次判定結果を変更することも多々あり、機械的に行われる一次判定に対し、専門的な知見から正確な判定が求められます。審査会は原則非公開で行われ、委員にも当然守秘義務が課せられます。

私の所属する昭和区認定審査部会は、第一部会から第四部会まであり、それぞれ部会委員と分野委員で構成されています。部会委員には医師・歯科医師・薬剤師が担当、分野委員には保健、福祉分野からそれぞれ選任された人たちが委員として出席しています。私は第一部会に所属し、医師一名、歯科医師一名と柔道整復師の私、計三名で認定審査の最終決定を行っています。

審査委員は、所属団体の推薦を受け市町村長が任命しています。柔道整復師も介護分野にどんどん進出し、愛知県下全ての市町村に最低でも一名ずつの認定審査委員が配置されることを願ってやみません。

## 笠寺

## 笠寺会 秋の保険研修会・情報交換会



笠寺支部広報担当  
平岩 丈彦

去る令和4年11月6日（日）これまでのコロナ禍の下、延期に次ぐ延期をされていた支部保険研修会・情報交換会が愛整会館で開催された。参加者数は24人と例年の会と比べるとまだ少ないが、新しい顔もちらほら見られた。

冒頭、山口 敬史支部長からの「コロナ、景気状況等、昨今の世の中を取り巻く厳しい状況を皆で乗り切ろう」といった趣旨の挨拶に続き小林 弘治副会長にもお越しいただき、山口 雅彦保険部長の保険研修が始まった。



研修会では最近の返戻の事例とその対処、また健保組合からの患者様への個別の問い合わせ文書に対して、会としての対応等の状況報告を頂き、その後は会員からの質疑応答となった。申請書の代筆の件、医科との併診、病名の相違の件、自費と保険施術、明細書、領収書の発行について…等々、久しぶりの対面開催のためか活発な意見交換が行われた。そして最後に「日頃の施術録の管理を大切にし、これこそが私達を守る手段」というお話で研修会は締めくくられた。

この後、場所を名古屋市熱田区の「賀城園」に移し情報交換会を開催。小林副会長、山口保険部長らは引き続き参加、さらに前名古屋市議会議員 横井 利明先生にもご参加いただき、今後の名古屋市と柔道整復師の関わ

りのお話や保険研修に引き続きのお話、また会員同士の近況など久しぶりの対面会合は貴重な時間となった。

まだまだ続きそうなコロナ禍や経済や社会保障等、考え出せば切りが無いことが多いが、同じ仲間が同じ思いで日々立ち向かっていることを感じ、勇気づけられた一日だった。

## 笠寺支部 柔道部の活動報告



笠寺支部  
下山 美紀

笠寺支部柔道部では、月に一度無料で柔道教室を開催させていただいております。以前は妹尾道場を会場としておりましたが、妹尾先生が辞められましたので、現在は六郷道場をお借りして毎月第3金曜日に開催されております。

笠寺支部による無料柔道教室は、柔道を通して地域社会への貢献、青少年の健やかなる成長に少しでも力になればと言うスタンスで、中学生から一般の方々まで幅広く私達柔道整復師が指導をさせていただいております。

指導に当たる先生方も、それぞれ施術所を終えてからの参加ですので、集まれる時間が遅く21時30分開始、23時ごろまで稽古をしております。

現在の参加者は中学生以上とさせていただいておりますが、いつの日か日曜日など休日に幼児や小学生に向けた練習会ができたならと提案させていただいております。



笠寺支部柔道担当者の青木 保宏会員は、練習終了後に毎回良いお言葉を下さいます。

「勝負は勝って嬉しい、負けて悔しいではなく、勝って嬉しい、負けて学ぶ」ということで、本当に負けた時こそ学ぶことが多く課題も出てきます。

稽古に参加した豊明市柔道会の生徒に話を聞くと、寺田 心太君は「強い先生といっばいやれて良かった」田平 龍輝君は「練習がきつすぎて丁度良く体力向上になります」もうひとり、齋藤 煌士君は「色々な人と柔道できて楽しいです」と中学生らしい感想を述べてくれています。また指導にあたってくださいます平山 貴博会員は「毎回楽しく練習させていただいております。中学生から社会人の方まで、幅広い方々が参加されていて、凄く和気藹々と楽しい練習をさせていただいております」と本活動の感想を述べられています。榎本 雄一郎会員は「個人的に練習させていただいているのもあるのですが、六郷道場の生徒、OBの方とも練習させていただき、世界レベル、日本レベルの選手も来てくれているので、日々挑戦と言う形で、怪我の無い様に楽しく練習させてもらっています」とのことです。

本当に楽しい練習会ですが、柔道だけではなく、柔整の先生方と情報交換の場所にもなっており、とても有意義に感じております。

現在業界は依然厳しい現状ではありますが、皆で力を合わせて、少しでも明るい日差しが見える様に頑張っ参りたいと思っております。



中村

## 第94回中村支部学術研修会



中村支部  
山北 陽一

令和4年11月13日（日）に第94回中村支部学術研修会が開催されました。今年度もコロナウイルスの感染状況がよくないこともありZoomを用いた開催となりました。当日は当支部および他支部会員の方に加え、米田柔整専門学校の3年生を対象に、研修会の案内をしたところ、6名の熱心な学生が参加されました。

今回の報告は2題で、まず始めに「本当は怖い！股関節その痛み」と題して富田 重光会員から報告がありました。実際に富田会員が経験した比較的稀な疾患である「一過性大腿骨頭萎縮症」の症例報告に加え、鑑別が必要な股関節疾患の中でも多くの特徴が類似した「大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折」について取り上げました。私たちが日々の臨床で遭遇する股関節痛を有する患者さんの中には臨床所見だけでは判断が難しく、早期にMRI検査が必要なケースがあることを報告されました。

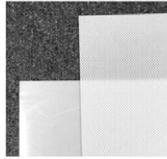


2題目には「上肢（手関節～手指）の固定～固定材料（オルフィット）を用いて～」と題して私から報告をしました。オルフィットはあまり認知度が低いですが、比較的以前からある固定材料で、その一番の特徴は強度の高さです。例えば手関節の固定でプライトンと比較した場合、プライトン二重では固

### オルフィットについて

オルフィットソフト（穴小・穴なし）  
厚さ1.6mm

取り扱い：パシフィックサプライ



オルフィット社  
ベルギーに本社があるスプリント材料のブランド。  
スプリント材料の他、制作に必要な材料、器具類などを扱っている。

定力が不十分ですが、オルフィットでは同じ二重でもかなりの強度を得ることができます。今回の報告では、このオルフィットの使用法・使用時の注意点・よく見られる失敗談、および実際に行っている上肢の固定方法などについて動画も用いて紹介しました。

中村支部学術部では、これからも日々の臨床に役立つ報告をしていきますので、ぜひ多くの方に研修会への参加をしていただきたいと思います。

## 熱田

### 熱田支部・大曽根支部 合同保険研修会



熱田支部広報担当  
山守 貴英

令和4年11月13日（日）、愛整会館において、森川会長を講師にお招きしての熱田支部と大曽根支部の合同保険研修会が執り行われた。COVID-19が蔓延して以来約3年振りの対面のみの研修会であった。

冒頭、森川会長より、マスコミ報道されて記憶に新しい柔道整復師研修試験財団の常任理事らによる国家試験問題漏洩事件についての説明と陳謝があった。我々が感じている以上に厚生労働省や保険者からは、業界全体に非常に厳しい目を向けられているというショッキングな内容であった。

研修会は、例によって柔整業界にとってシビアな話を中心で、過去の内容と重複すると



しながらも、事前に熱田支部内で募集した質問（健康保険証のマイナンバーカードへの移行について、後期高齢者の負担割合変更に伴う請求関係用紙の変更について、訪問型サービスC参入について、名古屋市介護認定審査会での柔整の登用について）など、最新のトピックスも多く大変有意義な時間であった。ここでは、熱田支部で用意した質問事項4点に対する回答・指導内容を簡単にお示しする。（令和4年11月現在の内容であることにご留意願いたい）

#### ●訪問型サービスC参入に関して

減り続ける療養費を補うべく、訪問での機能訓練指導に参入したいと3年前から愛知県知事に要望を出していたが、今年になり初めて文書で前向きな回答を得ることができ、顧問の先生方のお力添えもあり、県の室長レベルの現場の担当者と面談を行ったところ、その直後に名古屋市を除く県下53市町村の担当者や地域包括支援センター職員らを対象に、訪問型サービスに柔道整復師も参画できるという説明会も開催していただいた。名古屋市へも同様に働きかけを行っている。将来的には要介護者を対象とした介護サービスである訪問リハビリへの参入を目指したい。

#### ●健康保険証のマイナンバーカードへの移行について

2024年を目処に紙の健康保険証を廃止しマイナンバーカードへ移行となる方向だが、診療行為を行わない柔整・あはきの施術所や健診機関等では、患者の医療・健康情報は取得せず、必要な資格情報（保険証情報）のみを取得できる、4ケタの暗証番号入力等が不要な簡素な仕組みとなる予定で

ある。

カードリーダーは、ネット環境のある施設所には無料交付される予定である。

●後期高齢者の負担割合変更に伴う請求関係用紙の変更について

今のところ1割の方も2割の方も一緒に集計をすると国保連からも案内があるので、当面変更の予定はない。

●名古屋市介護認定審査会での柔整枠の拡大及び分野委員（補欠要員）ではない部会委員への登用についての働きかけについて

名古屋市の担当者にご来館いただき、令和5年度の審査会委員更新などについて話し合いをした。特に、名古屋市16区の内、名東区、瑞穂区、熱田区、東区においては審査会メンバーに柔整師が含まれておらず積極的な活用をお願いしたところ、早速名東区よりご連絡頂き1名追加となった。また、県下53の市町村に対しては、自民党県連の政調会長を通じて県へ同様の要望を伝えたところである。

研修会終了後は、森川会長にもご臨席いただき、引き続き愛整会館3階にて割り子弁当を頂きながらの意見交換会が行われ、無事閉会となった。

今回熱田支部からの参加者は会員数52名中、支部役員9名と業務執行理事1名、一般会員5名の15名であった。聞けば大曾根支部は101名中の参加者は27名とのこと。総数に対する割合で考えればそう差は無いと言えるが、学術研修会同様、自らの生活の糧に直結する研修会でもあるので、より多くの参加を期待したいところである。

## 半田

### 東海市市民総合防災訓練に参加



半田支部  
鬼頭 資治

令和4年10月22日（土）午後1時から4時まで、東海市立富木島小学校グラウンドにて「東海市市民総合防災訓練」が行われました。コロナの影響もあり、縮小規模での訓練となったため柔道整復師の参加は2名となりました。

訓練内容は、「救護所設営訓練」、「災害医療救護」及び「病院搬送訓練」で、医療チームでは、医師2名が二次トリアージと応急処置を行った他、救護所（赤エリア）の医師は搬送順位の決定を、歯科医師2名が歯科処置、死亡者の歯型照合を、薬剤師2名が薬品の搬入を、柔道整復師2名が一次トリアージエリアから救護所までの患者搬送及び救護所での骨折等の固定を、保健師、歯科衛生士は情報集約を行うなど、一次トリアージの補助及び応急手当と役割を分担して、トリアージ色が赤2名、黄2名、緑3名、黒1名と傷病者を想定して行いました。

我々柔道整復師は



担架で傷病者の搬送を2人でするのは結構大変であり、2回目の搬送から近くの従事者に手伝ってもらい3人で搬送しました。

反省点としては、最初に担架搬送をする人数の打ち合わせをすればもっとスムーズに行なえると認識しました。トリアージ間の間隔が狭くスムーズに救護ができなかったため、もう少し動線を考える必要もありました。又テント内で、下腿骨骨折の応急手当をした際に、衛生材料が足りなくなりサランラップやガムテープなどを使って固定しましたが、実際にやってみると普段使わない物でもアイデアで応急的に使えると認識しました。

今回の訓練を通して分かったことは、チームワークや伝達がいかに速やかに効率よくできるかが鍵だと痛感しました。

とても有意義な一日であり、来年度もまた参加しようと思いました。

## 岡崎

### 令和4年度 岡崎支部学術研修会



岡崎支部広報担当  
菅沼 秀生

令和4年11月13日（日）午前10時より、豊田市錦町の豊田市福祉センター3階37会議室において岡崎支部学術研修会が開催された。

昨年度は、コロナ感染症感染拡大のため、Zoom形式による開催であったが、今年度は2年ぶりに対面形式で行われた。発表者2名と出席者25名、計27名が参加した。

西村 武蔵支部学術担当と石川 益郎理事の開催挨拶から始まり、寛 芳幸理事の総評まで滞りなく進められた。

#### 【石川 益郎理事の挨拶】

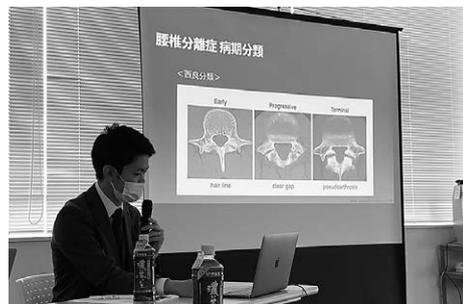
大正9年に接骨術は柔道整復術として公認され今年で102年目となります。これからの100年も、国民から求められる存在であるのに必要なことは、医療人としての柔道整復師

の向上です。それは学術向上と正しい保険知識の2つの柱を学び続けていくことではないでしょうか。柔道整復師の業務で最も大切な原点は、骨折と脱臼の整復と固定ができる事です。医療業種のなかでこれができる職種は、医師と柔道整復師のみです。この土台を行わず他の事だけ行っているのは、単なるリラクゼーション屋とかわりなく、医師や理学療法士からは医業として認められることはありません。全国の接骨院の申請書の集計をみると99.8%が捻挫、挫傷、打撲で0.2%が骨折、脱臼という現状です。国民や他医業職に認められるには、どこの接骨院に行っても骨折、脱臼の応急処置ができることです。先人たちが苦勞して起こしてくれた柔道整復術を、私たちがこれから努力して次の100年に繋げることが使命だと考えます。

#### 【腰椎分離症】

石川接骨院 勤務柔道整復師 三根 洗輝

1. 腰椎分離症とは
2. 接骨院での初期評価
3. 患者説明
4. 腰椎分離症のリスク
5. まとめ



#### 【Jones骨折】

石川接骨院 勤務柔道整復師 石川 蓮

1. Jones骨折の一般的な知識
2. Jones検診について
3. Jones検診からの考察 接骨院でJones骨折を診ていくために



**【質疑応答 質問者 支部長 石川 英一郎】**

1. 腰椎分離症において医科紹介への判断基準期間の約2週間が、発症からか、もしくは初検からか、について
2. Jones骨折のリスクとなる内在筋機能低下を改善する「ブラックボード」を用いた前足部回内外トレーニングで意識する点について
3. Jones骨折のリスクとなるカッピング動作のクロスオーバーステップを修正する要点について

両題の発表は、スポーツ活動をしている若い男性に多い傷病で、今後の施術指針を方向づけるのに的確な内容であり参考になった。また発表者2名が、高校サッカークラブチームのトレーナー帯同等で活躍しており、競技特性を熟知した専門性の高い評価と考察をわかりやすく示し、有意義な研修会となった。



## 共済会だより



愛知県柔道接骨師会共済会 副会長  
金田 圭一

日頃より愛知県接骨師会共済会事業運営に際し、多くのご理解ご協力いただきありがとうございます。

年が明けても尚、新型コロナウイルスの話題が途切れることなく、昨年より共済会としまして「コロナ休業における見舞金支給」

として12月末日現在74件の支給をいたしております。

共済会の理念としての相互扶助精神に基づき、病気・死亡、その他の不慮の災害等、あってはならないけれど避けられないものはあります。そのための組織として、他県では類を見ない共済組織が維持できております。

健康、健全にお過ごしの方の皆様には縁遠い組織となりかねませんので、共済組織理念の3番目「親睦、文化、レクリエーション活動に関する補助」、例えばコロナのため中止されておりましたボーリング大会・ゴルフコンペ等、今年こそは再開できればと願っております。

## 介護ステーションだより



管理者  
平岩 治郎

日ごろは愛柔整介護ステーションに対しご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

介護保険制度も新しい介護のあり方として「お世話する」から「自立支援」へと変わっております。高齢化が加速する中、介護の世界では高齢者の「自立支援」が大きなテーマとなり2018年度の介護報酬の改定では「自立支援・重度化防止」に重点を置いた介護へと変わっております。

具体的にいえば、高齢者が住み慣れた地域

や自宅で、できる限り自立した生活を送ることができるよう、支援することが大切となっております。

現在は、その支援策の一つとして、リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士）を個人宅に派遣し、生活機能の向上（ADL・IADLの自立）や身体機能維持のために、地域の体操会場や地域の社会資源への参加を支援することを目的として行っております。対象者は退院直後や外出困難等、生活に何らかの課題があり、短期集中的に支援することにより生活機能の向上が見込まれ、自宅等での生活が継続可能となる者で、要支援1・2又は事業対象者です。

現在、私を含めて2名の常勤介護支援専門員と7名の非常勤介護支援専門員で頑張っております。今後も先生方からのご紹介を頂戴したいと思っております。何卒ご協力の程、お願いいたします。



副理事長  
新井 勝博

日頃は協同組合活動に多大なるご協力を賜り、誠に有難うございます。

柔整業界はいま厳しい状況に置かれ、組合員の利用も減少しています。組合の収益の回復を目指すために、加盟業者を増やす等の対策を行い、尽力してまいる所存であります。

今期も新型コロナウイルス感染拡大の影響で、組合の収入は昨年度より大変厳しい数字が出ており、経費削減に努め利益を確保できるよう努力してまいります。また、各種行事におきましても、社会の動向をみながら開催ができればと思っております。

5月27日（金）には、愛整会館にて協同組合総代会が行われる予定でしたが、感染防止を考慮しまして書面議決にて縮小開催するこ

とになりました。無事に全案承認され、少額ではございますが、利用分量配当を配当させていただきました。12月には、今期の中間監査を行いまして、無事に終了しましたことも合わせてご報告させていただきます。

今後は、組合まつりの開催、各組織と連携を密にした組合幹旋事業の拡大、情報「あいち」の発行、物理療法勉強会、エコー勉強会の開催、組合ホームページの更新、内容の拡充、協同組合団体扱い生命保険および損害保険の加入促進、親善ボーリング大会の開催、親善ゴルフ大会の開催、柔道整復師賠償責任保険の加入徹底を行ってまいります。

医療業界においては、医療費、介護費が年々増え続けており、我々柔道整復業界も影響を受け、取り巻く環境は厳しくなりましたが、こういうご時世だからこそ組合員の積極的な参加と有効利用をしていただきますよう、ご理解ご支援のほど宜しくお願いいたします。また、ご要望などございましたら、各支部の理事にご遠慮なくお申し出ください。

## 編集後記

愛整広報83刊発刊にあたり、ご協力いただきました役員・広報部員・支部広報担当者・会員の皆様に感謝申し上げます。

今まで中止になっていた行事や救護活動、防災訓練等が再開しはじめ、社会も動き出してきました。「旅行支援を使ったよ」という会員もみえると思います。このように確実に社会は動き出しました。いつまでもコロナ禍気分で引きこもらずに、エンジン全開で活動を行わなければなりません。ただし、感染には注意してください。

そんなことで、皆さんの投稿を楽しみにしております！



松田 吉弘

毎年12月になると「一年が過ぎるのが早いですね」と患者さんと話をします。80歳以上の患者さんには必ず「まだ若いのに」と言われます。年齢を重ねるごとに一年が早く感じるようです。一説には、「重ねた年が多いほど一年の比率が小さくなるから」だそうです。

愛整広報83刊の編集も無事終わり、発刊に至ったことでほっとしています。コロナ禍で中止していた行事が少しずつ再開され始めました。令和5年はもっと活気のある年となり、みんなが楽しく会話して笑いがあふれる年となってくれることを願います。



岡田 忠士

82刊では収束が進み始めた感がしていましたが、もう既に第8波がまた伸びてきています。afterコロナ、withコロナで動きだしてはいますがリスクは全然変わっていません。

Wカップでは日本の躍進で盛り上がり、アニメの世界からジブリパークもオープンし、明るい話題もある中、ウクライナに向けた攻撃から傷ましい話題も起きていました。

愛整会もコロナ禍の中で行事が再開し、会員の皆様からの記事が集まり嬉しい限りです。会員皆様あつての愛整広報です。ありがとうございました。

本年もどうぞよろしく願いいたします。



室谷 勉

## 第84刊の原稿募集

1. 内 容 論説、時評、文化、学術、短歌、俳句、ふれあい、支部だより等  
また、記事に関連する写真がありましたら添付してください。  
支部名・お名前を必ずお書きください。  
ご本人の顔写真は必ず添付してください。
2. 締切日 2023年5月20日(土)
3. 送り先 〒460-0022 名古屋市中区金山5丁目13番22号  
公益社団法人 愛知県柔道整復師会 広報部  
愛整広報メールアドレス：[kouhou@shadan-aisei.jp](mailto:kouhou@shadan-aisei.jp)

### 投稿についてのお願い

1. 寄稿文の採否、および多少の字句の訂正は広報部にお任せください。
2. 引用文献は、必ず著者名、著書名、巻、頁、発行所を明らかにしてください。
3. 原稿は横書きに統一します。
4. 文章の題名、支部名、氏名は、4行使い、本文は5行目から書き始めてください。
5. 句点「。」読点「、」かっこ「（」「」は、必ず全角文字を使ってください。
6. 書き始め、段落の始めは1字あけて書いてください。
7. 原稿は読み返して、推敲してください。
8. 医学用語は正しく書いてください。
9. **原稿・写真は、支部担当者へ提出してください。支部担当者が、必ず校正して提出してください。**  
**原則提出していただいた原稿・写真は返却しませんのでコピーを提出してください。**
10. 原稿(データ)は、原則として、Windows版またはMac版Microsoft WORDまたはEXCELで作成してください。原稿執筆者の顔写真を必ず提出してください。
11. 1枚の画像の容量は300KB程度とします。  
文書内に貼付けた画像は、元の画像ファイルも添付してください。  
ただし、表紙に使用する写真は2MB以上で、できるだけプリントしたもの(2L版以上)を添えて提出してください。
12. 投稿した原稿・写真等は、締切日より1ヵ月程度はご自身でも保管しておいてください。

---

発行日 令和5年1月31日

---

発行者 森川 伸治

---

編集者 松田 吉弘・岡田 忠士・室谷 勉

---

印刷所 名古屋市東区古出来1-1-3 有限会社進栄社

---

TEL 052-722-1515・FAX 052-722-1517

---